

タイトルの「岁月缱绻 葳蕤生香」は「素晴らしい思い出はいつまでも忘れずに、未来は常に花が咲き誇り、春のように明るく希望に満ちていることを願う」という意味です。

私が感じた中国と日本との教育の違い

光陰矢の如し。白糠町に来てから一年余りが経ちました。

実は、こちらに勤務する前は、中国の高校で3年間教師をしていました。ALT(外国語指導助手)として、日本の教育、白糠の教育を間近に体験できるのは光栄なことです。いつも中国と日本との違いについて、興味深く観察しながら考えています。今回は恐縮ですが、私が感じた中国と日本との違いを少し書かせていただきます。少しでも皆さんに興味を持ってい



王 克麗 (ワン・ケリ)

1992年、中国の河南省生まれ。

日本の音楽や映画、ドラマを通して日本に興味を持ち、天津職業技術師範大学で日本語を学ぶ。2023年4月10日、中国語のALTとして白糠に着任。



ただければ幸いです。まず、日本の学校の三学期制と中国の二学期制の違いについてです。

中国では9月から翌1月までが上学期、2月から6月までが下学期となっており、6月が卒業シーズンです。また、休みの期間中は、先生も学生と同じように学校へは行かず、2カ月間の夏休みと1カ月間の冬休みを自由に過ごします。この長い休みがあるため、教員になりたいという若い人も少なくないそうです。

一方、日本では夏休み期間中も先生は学校に出動します。このことを初めて聞いたときは驚きました。普段から先生たちの仕事はとても忙しそうですね、もっと休ませて、リフレッシュさせた方が良くいのではないかと思うこともあります。

次に子どもの教育に関してです。白糠町では各科目に「美意識」を育てるカリキュラムを取り入れて、心豊かな子どもたちを育てています。例えば、学校では子どもたちが植物を育てています。美意識を目覚めさせる最初のステップとして、子どもたちが自然に親しむのは本当に良いことだと思います。



昨年7月の3連休で富良野へ行き、ラベンダーを見ってきました。その美しさにとっても感動しました。

また、図工の授業では、校外でいろいろな観察し絵を描きます。その作品に対して、先生たちは形にとらわれず、「とてもやわらかいタッチだね」とか「この色がいいね」などと批判せずに褒めます。こうしたことは、皆さんにとつては、ごく普通のことかもしれませんが、私からすると本当にすごいことです。こうした教育は、子どもたちにとつて、これからの人生の糧になると感じています。子どもたちの絵や、各家庭の庭や公園を見ると、日本人の美意識の高さを感じ、いつも感心させられます。中国の学校では、日本と比べて



昨年の厳島神社例大祭で、巫女として参加させていただきました。

子どもたちの美意識を育てる時間やカリキュラムが、まだまだ足りていないと思います。今はもうないのかもしれませんが、私が子どもの頃は試験が近づくと、音楽や図工の授業が国語や数学、英語といった授業に変更となることがありました。

私が感じたことは他にもたくさんありますので、機会があればまた書かせていただきたいと思います。今回の内容はあくまでも私個人の感想です。私が小学校や中学校を卒業してから10年以上が経っていますので、今は変わっているかもしれませんがご了承ください。